

# HPE StoreOnce Backup と Veeam の連携

## ストレージの統合によるパフォーマンスと コスト効率の向上

「当空港の重要なVMの1つが変更後に動作不能に陥った際に、Veeamはその価値を再度証明しました。テスト段階では問題は検出されず、最初のうちは変更によって障害が発生した理由がわかりませんでした。この障害が長時間に及んだ場合、空港業務が混乱し、評判の大幅な下落が生じかねませんでした。しかしながらVeeamを使用することで、私たちはVMを迅速に復旧してサービスを再開できました」

- ガトウィック空港、ITインフラストラクチャ  
責任者、Sherif Darwish氏

常時稼働エンタープライズでは、仮想インフラストラクチャ上に展開されるミッションクリティカルなワークロードが増え続けていることで、仮想マシン (VM) のスプロールが発生しています。

こうした状況は、バックアップストレージ容量の急増につながり、その結果としてストレージの効率性が低下しています。またVMのスプロールとデータストレージサイズ要件の増大に伴い、従来のバックアップツールは、バックアップウィンドウの縮小、コストの増加、管理の複雑化、パフォーマンスの低下などの問題により、その役割を果たせなくなりつつあります。

データのバックアップと可用性は重要なビジネス要件であり、適切に計画および展開することが大切です。HPE StoreOnceを、HPE StoreOnce CatalystおよびVeeamと組み合わせることで、今日のバックアップ管理者が直面している以下のような一般的な問題を解決しながら、ストレージを集約して効率性を高めることが可能になります。

- **バックアップのスプロール** - 需要の増大に合わせてVM、ホスト、ストレージなどを追加する際には、バックアップウィンドウを維持するために、バックアップインフラストラクチャの増強も必要になる可能性があります。その結果、多数のバックアッププロセスの運用や新たなデバイスの管理が必要になることでオーバーヘッドが増大します。
- **バックアップウィンドウの超過** - 夜間バックアップ用ソリューションの性能が不十分であると、業務開始時間になってもバックアップが完了しない可能性があります。このような事態が生じると、システムパフォーマンスが低下して、ユーザーやアプリケーションに多大な影響が生じます。あるいはバックアップ処理を途中で打ち切らなければならない、保護が不完全になることも考えられます。
- **信頼性の低いバックアップとリカバリ** - VM、スナップショット、バックアップエージェントなどを管理し、適切なバックアップスケジュール

を計画するのは容易な作業ではありません。さらに予期せぬ事態が発生することも考えられ、何らかの原因で期待どおりのバックアップを作成できなければ、期待どおりのリカバリを実現できず、データ損失やダウンタイムの発生リスクが高まります。

## 進化するニーズに対応したデータ 保護ソリューションが必要

今日のIT部門には以下に示すような特徴を持つソリューションが必要です。

- **データ量の増加とバックアップウィンドウの縮小に対応するための卓越したパフォーマンス** - HPE StoreOnce Catalystはバックアップエージェントを必要とせず、VMワークロードへの影響を軽減しながら、複数の同時バックアップストリーム (完全合成バックアップ) を単一デバイスに驚異的なスピードで保管することが可能です。そのためバックアップ時間の短縮と高速リカバリが可能になり、何らかの問題が発生した場合にもデータアクセスを迅速に復旧できます。
- **将来的なデータとVMの増加に配慮した容易なスケールアウト設計** - HPE StoreOnceのアーキテクチャーはサービスを中断することなく段階的に増強でき、拡張用のシェルフやカブレットを使用することで、小規模な実装からスタートして最大2,240TB (raw容量)/1,728TB (使用可能容量) まで拡張可能です。さらにVeeamのシンプルなソケット単位のライセンス体系により、環境の拡大に合わせてすべてのVMを容易に保護できます。

HPE StoreOnceを使用することで  
バックアップ容量を最大

95%

削減できます<sup>1</sup>

**HPE StoreOnce**は業界をリードするディスクベースの重複排除/バックアップターゲットデバイスです。また**HPE StoreOnce Catalyst**はバックアップ/リカバリ用に最適化されたデバイスタイプで、パフォーマンスを向上させるためにNASやVTLよりも効率的なプロトコルを使用します。さらにもう1つの重要な利点として、Catalystはサーバーリソースとネットワーク帯域幅の使用を最適化するために、バックアップデータの重複排除処理を行う場所（アプリケーションサーバー、バックアップサーバー、またはターゲットデバイス）を制御することも可能です。

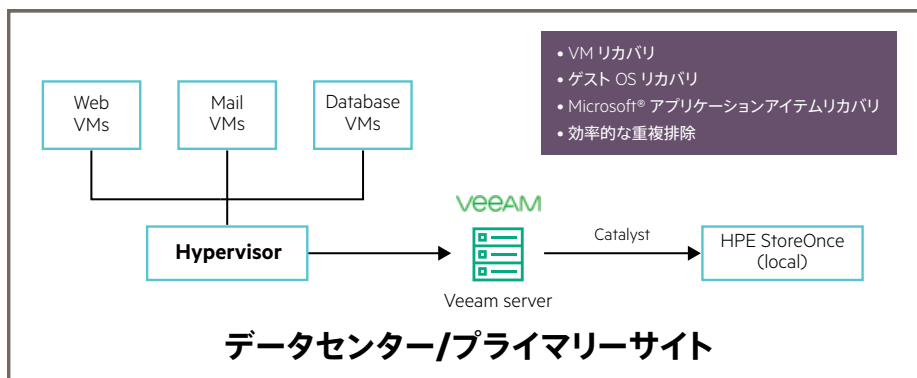


図1. HPE StoreOnce CatalystとVeeamによるHPE StoreOnceへのバックアップ。

- **継続的なバックアップコストの削減** - HPE StoreOnce連携型重複排除ソリューションは、ディスクに格納されるデータサイズを縮小することで、バックアップの効率的な保管を可能にします。重複排除機能を使用する場合は、重複データが繰り返し格納される代わりに、一意のデータブロックのみが格納され、同一データブロックの別のインスタンスが必要な場合には当該ブロックへのポインターが配置されます。HPE StoreOnceを使用すると、バックアップ容量を最大95%削減できるため、ギガバイトあたりのストレージコストが低減し、復旧ポイントの数を増やすことも可能になります。
- **信頼性の向上** - HPE StoreOnceとVeeamを組み合わせることで、データをより確実にバックアップして、アプリケーションの可用性を維持することが可能になります。HPEソリューションは、完全な冗長性と自律的な再起動により、ハードウェアの単一障害点を減少できるように設計されています<sup>2</sup>。
- **復元の柔軟性の向上** - Veeamによるイメージレベルのバックアップは、高速かつ効率的でフレキシブルなVMリカバリを可能にします。またエージェントを使用することなく、Microsoft Active Directory、SQL Server、Exchange、SharePoint、Oracleなどのアプリケーションのきめ細かいファイルレベルまたはアイテムレベルのリカバリを実行できます。

## 仮想環境をバックアップするための万全の体制が必要

組織を運営するうえで大切な資産に何らかの保険をかけることは当然であり、データもそうした価値ある資産の1つです。災害はいつでも発生するかわからないため、保有する環境を評価したうえで、組織全体にわたってデータ保護と可用性を向上させつつ、複雑さを軽減し、コストを削減可能なソリューションを構築することが大切になります。

**HPE StoreOnce**とVeeamの組み合わせは、データを保護し、復旧を容易にし、可用性を維持するうえで大きなメリットをもたらし、管理負担、複雑性、およびコストを軽減しながら、厳しさを増すバックアップウィンドウ要件に適合することを可能にします。またこのソリューションは既存の仮想環境にシームレスに統合されて、エージェントレスのシンプルな展開により、ストレージの削減と集約を容易にします。

<sup>1</sup> HPE社内ラボのテストでは、StoreOnceにより20:1のデータ重複排除率が達成されました。この結果は典型的なものではなく、データ変更率やバックアップ保持期間などのさまざまなファクターによって、重複排除率は変動する可能性があります。

<sup>2</sup> 選択されたHPE StoreOnceシステムによって異なります。

## 詳細情報

[www.hpe.com/jp/storeonce](http://www.hpe.com/jp/storeonce)

[www.hpe.com/jp/ja/storage/data-protection-solutions.html](http://www.hpe.com/jp/ja/storage/data-protection-solutions.html)

## メールニュース配信登録

© Copyright 2016, 2018 Hewlett Packard Enterprise Development LP. 本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。ヒューレット・パカード エンタープライズ製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoftは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標もしくは商標です。Oracleは、Oracleおよびその関連会社の登録商標です。その他すべての第三者の商標は、それぞれの所有者に帰属します。

4AA6-4434JPN, 2019年2月, Rev. 1.1